System Storage DS3950 クイック・スタート・ガイド

お願い:本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになってい ますので他の電気機器には使用しないでください。

このクイック・スタート・ガイド では、IBM[®] System Storage[™] DS3950 ストレージ・サブシステム (マシ ン・タイプ 1814-94H および 1814-98H) のインストール、ケーブル接続、および構成についての基本手順 を説明します。

DS3950 およびその他の IBM System Storage 製品についての情報を習得するには、http:// ibmdsseriestraining.com/ を参照してください。

IBM System Storage ディスク・ストレージ・システムの最新情報については、http://www.ibm.com/systems/ support/storage/disk を参照してください。

ストレージ・サブシステムの詳細情報については、「*IBM System Storage DS3950 ストレージ・サブシステ ム 取り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド*」を参照してください。安全上の注意については、 *Documentation* CD に収録されている、複数の言語で書かれた「*IBM Safety Information*」資料を参照してください。

取り付けのガイドライン

ストレージ・サブシステムをラック・キャビネットに取り付ける前に、以下のガイドラインをお読みくださ い。

- ・ 重さが 18 kg以上の装置をラック・キャビネットに取り付ける場合は 2 人以上で行ってください。
- 室温が 35℃ 以下であることを確認してください。
- 通気口をふさがないでください。通常 15 cm のスペースがあれば空気が正しく流れます。
- ラック・キャビネット内に取り付けたストレージ・サブシステムの上または下のスペースを空けたままにしないでください。ストレージ・サブシステム・コンポーネントへの損傷を防ぐために、必ずフィラー・パネルを取り付けてオープン・スペースを覆い、正しい空気循環を確保します。
- ストレージ・サブシステムは必ず穴のあいたドアが付いたラック・キャビネットに取り付けてください。
- 装置は、ラック・キャビネットの下部から順に上の方に向かって取り付けるように計画してください。
- 最も重量のある装置はラック・キャビネットの下部に取り付けてください。
- ラック・キャビネットから同時に複数の装置を引き出さないでください。
- 取り付け作業が容易になるように、ラック・ドアおよびサイド・パネルは取り外してください。
- ストレージ・サブシステムは、正しく接地されたコンセントに接続してください。
- ラック・キャビネットに複数の装置を搭載する場合は、電源容量の過負荷に注意してください。
- ストレージ・サブシステムは、次の要件を満たすラック・キャビネットに取り付けてください。
 - 前部支持フランジと前面ドア内側との最小奥行きが 70 mm であること。
 - 後部支持フランジと背面ドア内側との最小奥行きが 157 mm であること。
 - ケーブル管理アームの使用を可能にするため、前部と後部支持フランジ間の最小奥行きが 718 mm、 最大奥行きが 762 mm であること。

装置を持ち上げる場合には、安全に持ち上げる 方法に従ってください。







≥18 kg (39.7 lb) ≥32 kg (70.5 lb) ≥55 kg

品目リスト

以下の図と品目リストは、ストレージ・サブシステムをラック・キャビネットに取り付ける際に必要な品目 を示しています。欠落または損傷している品目がある場合は、購入先にお問い合わせください。

- 注:
- 1. 図はご使用のハードウェアと少し異なる場合があります。
- 2. DS3950 のオーダーによっては、以下の図に記載されていないその他付属品が、配送ボックスに含まれている場合があります。
- 3. Small Form-factor Pluggable トランシーバー (SFP) はファイバー・チャネル・ホスト・ポートに搭載済 みです。
- ホスト・インターフェース・ケーブル、イーサネット・ケーブル、ファイバー・チャネル・シグナル・ ケーブル、および iSCSI シグナル・ケーブルは、以下の図には示されていません。



DS3950 を取り出したら、以下の品目があることを確認してください。

- 拡張ディスク・ドライブ・モジュール (E-DDM) またはブランク・トレイ (16 個) (ストレージ・サブシ ステムに最大 16 個のドライブが付属している場合があります)
- RAID コントローラー (2 つ)

- AC 電源機構とファン・ユニット (2 つ)
- ファイバー・チャネル・シグナル・ケーブル (2本)
- iSCSI シグナル・ケーブル (2 本) (モデル 98H のみ)
- バッテリー・ユニット (2 つ)
- 電源ケーブル (ラック・ジャンパー回線コード 2 本)
- ・ 診断用の折り返しプラグ/カプラー (1 つ)
- シリアル・ケーブル・アダプター (1 つ)
- 以下を含む、ラック・マウント用ハードウェア・キット (1つ)
 - レール (2本) (左右のアセンブリー)
 - M5 黒 6 角マイナスねじ (12 本)
 - M4 ねじ (4 本)
 - ワッシャー (8 個)
- 8 Gbps SFP (4 個)

注: SFP は、DS3950 に搭載済みです。

重要: DS3950 には、地域に固有の AC 電源コードは付属していません。ご使用の地域に適した、IBM 認定の電源コードを入手する必要があります。詳しくは、「*IBM System Storage DS3950 ストレージ・* サブシステム 取り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド」を参照してください。

ツール

ストレージ・サブシステムを取り付ける前に、設置場所にインターネット接続を用意し、以下のツールを備 えておく必要があります。

- ストレージ・サブシステムとそのコンポーネントを載せておくカート
- ケーブル・コネクター用のラベル
- 中型のマイナス・ドライバー
- 2 番のプラス・ドライバー、または M5 六角ドライバー
- 带電防止保護

取り付けの概要

ストレージ・サブシステムの取り付けでは以下の手順が必要となります。

- 1. 4ページの『ストレージ・サブシステムの梱包からの取り出し』
- 2. 5ページの『サポート・レールの取り付け』
- 3. 6ページの『ストレージ・サブシステムおよび拡張エンクロージャーのコンポーネントの取り外し』
- 4. 7ページの『ストレージ・サブシステムおよびストレージ拡張エンクロージャーのラック・キャビネットへの取り付け』
- 5. 8ページの『ケーブルの取り付け』
- 6. 15ページの『電源を入れる』
- 7. 16ページの『ソフトウェアのインストール』
- 8. 17ページの『ストレージ・サブシステムのディスカバーとセットアップ』
- 9. 18 ページの『IBM Support Web サイトからの情報の取得』

18ページの『ストレージ・サブシステム・ファームウェアの更新』
 19ページの『ストレージ・サブシステムの構成』

ストレージ・サブシステムの梱包からの取り出し

安全に関する注記 4:



≥ 18 kg (39.7 lb)	≥ 32 kg (70.5 lb)	≥ 55 kg (121.2 lb)	

注意:

装置を持ち上げる場合には、安全に持ち上げる方法に従ってください。

ストレージ・サブシステムを取り出すには、以下の手順を実行します。

- 1. もう 1 人の手を借りて、ストレージ・サブシステムを配送ボックスから取り出し、カート、テーブル、または一段高い面の上に置きます。
- ストレージ・サブシステムを検査して、必要な部品がすべて揃っていることを確認します。ストレージ・サブシステムに含まれる部品については、2ページの『品目リスト』のセクションを参照してください。
- 3. 右側と左側のサポート・レールおよび M5 ねじを取り出して、5ページの『サポート・レールの取り付け』のセクションに進みます。

サポート・レールの取り付け



- 注:
- 1. ストレージ・サブシステムに同梱のサポート・レールを、重量が適切に分散されるように、ラック・キャビネットの下の方に取り付けてください。
- 2. ストレージ拡張エンクロージャーを取り付ける余地をストレージ・サブシステムの上下に残しておいて ください。
- 3. サポート・レールには、右側用と左側用を判別するために 「R」および「L」 のマークが付いています。

ラック・キャビネットに左右のサポート・レールを取り付けるには、以下の手順を実行します。20 ページ および 21 ページの、前面用および背面用のラック・マウント・テンプレートを使用して、サポート・レー ルの位置を正しいラック穴に合わせます。

- 1. 左側のサポート・レールから作業を始めます。2 個のレール調節ねじを緩めます。この調節ねじは、サ ポート・レールを一定の長さで固定するために使用します。
- 左のサポート・レールの最前部を、前部ラック・キャビネット・サポート・フランジの内側に押しつけたまま、サポート・レールの後部を、後部ラック・キャビネット・サポート・フランジに接するまで延ばします。サポート・レール後部の位置合わせピンを、ラック・キャビネット後部の穴に滑り込ませます。
- 3. サポート・レールのフランジがラック・キャビネットのサポート・レール・アセンブリーの内側に位置 した状態で、ラック・キャビネットの前面から、プラスのドライバーを使用して下側の M5 ねじのみを 完全に締めます。上側の M5 ねじを取り付けて、半分だけ締めます。

注:

- a. ストレージ・サブシステムをラック・キャビネットに取り付けるまでは、上側の M5 ねじを完全に 締め付けないでください。
- b. M5 ねじをラック・マウント・フランジの正方形のホールに通して取り付ける場合は、必ずワッシャ ーを使用してください。
- ラック・キャビネットの背面から、プラスのドライバーで 2 個の M5 ねじを途中まで締めます。
 重要: ストレージ・サブシステムの重みを十分に支える程度にねじを締めます。ストレージ・サブシステムをラック・キャビネットに取り付けるまでは、ねじを完全に締め付けないでください。
- 5. 中型のマイナス・ドライバーで、2 個のレール調節ねじを締めます。
- 6. 右側のサポート・レールについて、ステップ 2 から 5 を繰り返します。

ストレージ・サブシステムおよび拡張エンクロージャーのコンポーネントの 取り外し

ストレージ・サブシステムを持ち上げる前に、コントローラー、ホット・スワップ・ハード・ディスク・ド ライブ、AC 電源機構、およびファン・ユニットを取り外します。これにより、DS3950 を取り付ける際の 重量が軽減されます。DS3950 および EXP395 の後部の各コンポーネントは、ロッキング・ラッチ付きレ バーによって所定の位置に保持されています。

コンポーネントを取り外すには、以下の手順を実行します。



- 1. 次のようにして、レバーを解放します。
 - a. ラッチを締め付けて、レバーを 90°手前に引いて開きます (レバーは水平になります)。ラッチは、 レバーにあるオレンジ色のつまみです。
 - b. ゆっくりとレバーをシャーシから引き離し、モジュールを取り外します。コントローラーおよび拡張 エンクロージャー環境サービス・モニター (ESM)のそれぞれにラベルを付けます。コントローラー A および ESM A は左上のスロットにあり、コントローラー B および ESM B は右下のスロット にあります。



- 2. 次のようにして、ハード・ディスク・ドライブを取り外します。
 - a. 元の順序で再取り付けができるように、ハード・ディスク・ドライブにラベルを付けておきます。

- b. トレイ・ハンドル下部の内側を押して、E-DDM のラッチを解放します。
- c. 閉じたラッチを開いた位置まで持ち上げます。ラッチは、開くと E-DDM 前面に対して 90°の角度 になります。
- d. E-DDM をベイから引き出します。
- e. 各 E-DDM について、ステップ 2b から 2d を繰り返します。
- 3. ストレージ拡張エンクロージャーを取り付ける場合は、事前にエンクロージャー・コンポーネントを取 り外しておきます。コンポーネントの取り外し方法の詳細については、エンクロージャーに付属の「取 り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド」を参照してください。

ストレージ・サブシステムおよびストレージ拡張エンクロージャーのラッ ク・キャビネットへの取り付け

安全に関する注記 4:





注意:

装置を持ち上げる場合には、安全に持ち上げる方法に従ってください。

ストレージ・サブシステムを取り付けるには、以下の手順を実行します。

- 1. ストレージ・サブシステムの後部をサポート・レールの上にスライドさせます。
- 2. ストレージ・サブシステムの両側にある前面マウント・ホールを、サポート・レールの前部にあるマウント・ホールに位置合わせします。
- 3. 4 つの M5 ねじを、ストレージ・サブシステム前部の両側にあるサポート・ホールに取り付けて締めま す。



- 4. 4 つの M4 ねじで、ストレージ・サブシステム後部をラック・キャビネットに取り付けて締めます。
- 5. 上側の 2 つの M5 ねじを締めます。これにより、ステップ 3(5 ページ) で取り付けたサポート・レー ルをラック・キャビネットの前面に固定します。
- 6. 4 つの M5 ねじを締めます。これにより、ステップ 4(5ページ) で取り付けたサポート・レールをラックの背面に固定します。

ケーブルの取り付け

安全に関する注記 3:



注意:

レーザー製品 (CD-ROM、DVD ドライブ、光ファイバー・デバイス、または送信機など) が取り付けられ ている場合は、以下の点に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されていないコントロールや調整を使用したり、本書に記述されていない手順を実行すると、有害な光線を浴びることがあります。



危険

ー部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれていま す。次のことに注意してください。

カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光 線を直接浴びることは避けてください。

以下の図を参照して、DS3950 ストレージ・サブシステムの前面および背面にある部品、LED、および入出 カポートの位置を確認します。

注:次の図は、ご使用の DS3950 ハードウェアと少し異なる場合があります。



次の図は、1 つのコントローラーにつきファイバー・チャネル・ドライブ・チャネルが 2 つ、ファイバ ー・チャネル・ホスト拡張チャネルが 2 つ付いた DS3950 モデル 94H コントローラーの背面図を示して います。



次の図は、1 つのコントローラーにつきファイバー・チャネル・ドライブ・チャネルが 2 つ、ファイバ ー・チャネル・ホスト拡張チャネルが 2 つ、および iSCSI ホスト拡張チャネルが 2 つ付いた DS3950 モ デル 98H コントローラーの背面図を示しています。



ホスト・サーバーとストレージ・サブシステム・コントローラーのケーブル 接続

ストレージ・サブシステムをホスト・サーバーにケーブル接続する前に、使用するストレージ・サブシステ ムの管理方式を決定します。ストレージ・サブシステムは、インバンド管理接続またはアウト・オブ・バン ド管理接続のいずれかで管理することができます。DS3950 は、最大 4 つのホストへの冗長直接ファイバ ー・チャネル接続および間接 (切り替え可能) iSCSI 接続をサポートします。ホスト・サーバーから DS3950 へのケーブル接続の詳細については、ストレージ・サブシステムに付属の「*IBM System Storage DS3950* 取り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド」を参照してください。

注:

- 1. DS3950 は、ホスト・システムからストレージ・サブシステムの iSCSI ポートへの直接接続をサポート していません。
- 2. DS3950 は、同一ホスト・システムからの iSCSI およびファイバー・チャネル・ポートへの接続を両方 ともサポートしていません。

ホスト・サーバーとストレージ・サブシステム・コントローラーをインバンド管理用にケーブル接続するに は、以下の手順を実行します。

- 1. Small Form-factor Pluggable トランシーバー (SFP) はファイバー・チャネル・ホスト・ポートに搭載済 みです。SFP がホスト・ポートにしっかりと取り付けられていることを確認します。
- 2. 使用されないホスト・ポートから予備の SFP トランシーバーをすべて取り外します。SFP トランシー バーに黒のプラスチック・プラグが付いていれば取り外してください。
- 3. 構成では、直接トポロジー、スイッチ (ファブリック)・トポロジー、または混合トポロジーを選択しま す。ホスト接続トポロジーの詳細については、ストレージ・サブシステムに付属の「*IBM System Storage DS3950 取り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド*」を参照してください。

- 各ホストとコントローラーをケーブル接続した後で、それぞれのケーブルの端に接続についての情報を ラベル付けします。
- 5. 使用する予定のすべてのコントローラーとホスト・チャネルについて、ステップ 1 から 4 を繰り返し ます。

重要: DS3950 は、同一ホスト・システムからの iSCSI およびファイバー・チャネル・ポートへの接続 を両方ともサポートしていません。

- 6. リンク速度スイッチを、4 Gbps データ転送速度に設定します。リンク速度スイッチが 2 Gbps になっている場合、ストレージ・サブシステムの電源をオフにして、スイッチを 4 Gbps (左方)の位置に移動します。リンク速度スイッチの位置については、9 ページのストレージ・サブシステムの前面図を参照してください。
- ストレージ・サブシステムと EXP395 および EXP810 ストレージ拡張エンクロージャーとのケーブル 接続については、12ページの『ストレージ・サブシステムとストレージ拡張エンクロージャーのケーブ ル接続』を参照してください。

インバンドとアウト・オブ・バンド管理

インバンド管理を使用するためには、ホスト・サーバーにホスト・エージェント・ソフトウェアをインスト ールする必要があります。インバンド管理方式では、ストレージ・マネージャー・エージェントの他に既存 のホスト接続を使用します。追加のケーブル接続は不要です。詳しくは、「*IBM System Storage DS ストレ* ージ・マネージャー インストールおよびホスト・サポートのガイド」を参照してください。

アウト・オブ・バンド管理方式では、管理ステーションからそれぞれのコントローラーまでの接続にイーサ ネット接続を使用します。少なくとも 1 つの管理ステーションをインストールする必要があります。管理 ステーションは、ホスト・サーバーであっても、イーサネット・ネットワーク上のワークステーションであ っても構いません。イーサネットのケーブル接続を使用するには (アウト・オブ・バンド管理の場合の み)、以下の手順を実行します。

- 1. イーサネット・ケーブルの一方の端をコントローラー A のイーサネット・ポート 1 コネクターに接続 します。イーサネット・ポートの位置については、9 ページのストレージ・サブシステムの背面図を参 照してください。
- 2. イーサネット・ケーブルのもう一方の端を対応するネットワーク接続部に接続します。
- 3. コントローラー B について、ステップ 1 および 2 を繰り返します。

ストレージ・サブシステムとストレージ拡張エンクロージャーのケーブル接続

DS3950 は、EXP395 および EXP810 ストレージ拡張エンクロージャーに対応します。 EXP810 ストレー ジ拡張エンクロージャーを取り付ける場合は、該当のオプション・フィーチャーを購入する必要がありま す。ストレージ拡張エンクロージャーのケーブル接続について詳しくは、ストレージ・サブシステムに付属 の「*IBM System Storage DS3950 取り付け、メンテナンスおよびユーザーのガイド*」を参照してください。

冗長度およびドライブ損失保護を最大化するには、このセクションの情報にしたがってケーブルを取り付け ます。ストレージ・サブシステムとストレージ拡張エンクロージャーをケーブル接続するには、以下の手順 を実行します。

- 1. 必要な EXP810 または EXP395 ドライブ・ポートのそれぞれに SFP モジュールをまだ取りつけていな い場合は、それを挿入します。使用されないドライブ・ポートから予備の SFP を取り外します。
 - 注: ストレージ拡張エンクロージャー当たり最低 2 台のドライブを取り付けます。左方のスロットから 始めてください。
- ストレージ・サブシステムのコントローラー A のポート 2、ドライブ・チャネル 1 から、1 番目のス トレージ拡張エンクロージャーの左方 ESM ボード上のポート 1B に光ファイバー・ケーブルを接続し ます。
- 3. コントローラー B のポート 1、ドライブ・チャネル 2 から、1 番目のストレージ拡張エンクロージャ ーの右方 ESM ボード上のポート 1B に光ファイバー・ケーブルを接続します。



4. 2 番目のストレージ拡張エンクロージャーに接続するには、ストレージ・サブシステムのコントローラーAのポート1、ドライブ・チャネル1から、2 番目のストレージ拡張エンクロージャーの左方ESMボード上のポート1Bに光ファイバー・ケーブルを接続します。次に、コントローラーBのポート2、ドライブ・チャネル2から、2 番目のストレージ拡張エンクロージャーの右方ESMボード上のポート1Bに光ファイバー・ケーブルを接続します。



最大 6 台のストレージ拡張エンクロージャーをケーブル接続するには、次の図を参照してください。



電源を入れる

安全に関する注記 5:



注意:

装置の電源制御ボタンおよび電源機構の電源スイッチは、装置に供給されている電流をオフにするものでは ありません。装置には 2 本以上の電源コードが使われている場合があります。 装置から完全に電気を取り 除くには給電部からすべての電源コードを切り離してください。



重要:電源は、必ず以下の手順どおりの順序で入れてください。電源機構を2つ装備しているエンクロージャーの電源冗長度を設定するには、少なくとも2つの電力配分装置 (PDU) をラック・キャビネット内に設置してください。それぞれのエンクロージャーの電源を、別々のPDU に分けて接続します。さらに、そのPDUを、回路が別々の外部電源コンセントに接続します。

ストレージ・サブシステムの電源を入れるには、以下の手順を実行します。

- 1. 電源コードをストレージ・サブシステムの各電源機構に接続します。
- 2. 各電源コードのもう一方の端を電源コンセントに接続します。
 - 重要: DS3950 ストレージ・サブシステムの電源を入れる前に、2 台以上のハード・ディスク・ドライブが格納されている必要があります。DS3950 に最低 2 台のハード・ディスク・ドライブが取りつけられていない場合、エンクロージャーの電源機構へのロードが十分でないために、電源機構が断続的に障害の表示を繰り返し、電源機構が不良であると誤って示す場合があります。DS3950ストレージ・サブシステムおよび接続されているストレージ拡張エンクロージャー内のすべてのハード・ディスク・ドライブに、事前構成データが入っていてはなりません。
- 3. スイッチの電源をオンにします (該当する場合)。
- 接続されているすべてのストレージ拡張エンクロージャーの両方の電源スイッチをオンにして、60 秒待 ちます。
- 5. ストレージ・サブシステムの両方の電源スイッチをオンにします。
 - 注: ストレージ・サブシステムの電源を切るには、前述の手順を逆に実行します。ストレージ・サブシ ステムの電源を切ってから、ストレージ拡張エンクロージャーの電源を切ってください。

ソフトウェアのインストール

ストレージ・サブシステムに関連するコンピューターには 2 つのタイプがあります。ホスト は、入出力 (I/O) をストレージ・サブシステム LUN に送信します。管理ステーション はストレージ・サブシステム を管理します。1 つのコンピューターは、ホスト、管理ステーション、またはその両方として機能できま す。このセクションの説明を使用して、DS Storage Manager ソフトウェアを管理ステーションまたはホス トにインストールしてください。

注: ご使用のオペレーティング・システムに対応した DS Storage Manager ソフトウェアの最新バージョン は、IBM Support Web サイトにあります。詳しくは、18 ページの『IBM Support Web サイトからの 情報の取得』を参照してください。ストレージ・サブシステムに付属の DS Storage Manager DVD の ソフトウェア・バージョンは、最新バージョンではないことがあります。

DS Storage Manager の管理ステーションへのインストール

DS Storage Manager ソフトウェアを管理ワークステーションにインストールするには、以下の手順を実行 します。

- 1. インターネットにアクセスできる場合は、IBM Support Web サイト (18 ページの『IBM Support Web サイトからの情報の取得』を参照)から DS Storage Manager ソフトウェアの最新バージョンをダウン ロードします。インターネットにアクセスできない場合は、DS Storage Manager DVD を管理ワークス テーションに挿入 し、ご使用のオペレーティング・システムに対応するディレクトリーを見つけます。
 - 注:管理ステーションが実行するオペレーティング・システムのタイプは、DS Storage Manager DVD のディレクトリーで見つけてください。詳しくは、DS Storage Manager DVD のオペレーティン グ・システムとデバイス・ドライバーの README ファイルを参照してください。
- 2. SMIA 実行可能ファイルをダブルクリックします。セットアップ・ウィザードの説明に従います。プロ ンプトが出たら次のオプションの 1 つを必ず選択してください。
 - コンピューターを管理ステーションとしてのみ使用する場合は、「Management Station (管理ステーション)」をクリックします。
 - コンピューターを管理ステーションおよびホストとして使用する場合は、「Typical (full installation) (標準 (フルインストール))」をクリックします。
- 3. このコンピューターをモニターとしてのみ指定する場合は、プロンプトが出たら「Automatically Start Monitor (自動的にモニターを開始する)」を選択します。
 - 注: 追加のコンピューターでストレージ・サブシステムを管理する場合、追加コンピューターをセット アップするときに、「Automatically Start Monitor (自動的にモニターを開始する)」をクリックし ないでください。代わりに、プロンプトが出たら、「Do Not Automatically Start Monitor (自動的 にモニターを開始しない)」をクリックします。そうしないと、ストレージ・サブシステムに問題が 生じた場合に、複数のアラート通知が送信されます。

ソフトウェアのホストへのインストール

ソフトウェアをホストにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 現行の HBA (ホスト・バス・アダプター) について、HBA BIOS とデバイス・ドライバーのバージョ ンを確認します。必要であれば、ソフトウェアをインストールする前に、IBM Support Web サイトで示 された現行レベルにそれらを更新します (18 ページの『IBM Support Web サイトからの情報の取得』 を参照)。*DS Storage Manager* DVD にも、IBM HBA の HBA BIOS、デバイス・ドライバー、および README ファイルが収容されています。 HBA BIOS、デバイス・ドライバー、および README ファ イルは、*DS Storage Manager* DVD の HostAdapter ディレクトリーに存在します。 注:

- a. ご使用の HBA の BIOS およびデバイス・ドライバーは、必ず IBM Support Web サイトから直接 入手してください。詳しくは、18ページの『IBM Support Web サイトからの情報の取得』を参照し てください。
- b. Microsoft[®] Windows[®] のインストール済み環境では、StorPort バージョンの HBA デバイス・ドライ バーをインストールします。
- 2. ホスト HBA からストレージ・サブシステム・コントローラーへのパスを管理するには、マルチパス・ ドライバーをインストールします。詳しくは、「IBM System Storage DS ストレージ・マネージャー バ ージョン 10 インストールおよびホスト・サポートのガイド」を参照してください。

ストレージ・サブシステムのディスカバーとセットアップ

ストレージ・サブシステムをディスカバーおよびセットアップするには、以下の手順を実行します。

- 1. 管理ステーションから DS Storage Manager ソフトウェアを開始します。「Enterprise Management (エ ンタープライズ管理)」ウィンドウと「Confirm Initial Automatic Discovery (初期自動ディスカバリーの 確認)」ウィンドウが開きます。
- ストレージ・サブシステムをディスカバーするには「Enterprise Management (エンタープライズ管理)」 ウィンドウから「Automatic Discovery (自動ディスカバリー) を選択します。初期自動ディスカバリー が完了すると、「Enterprise Management (エンタープライズ管理)」ウィンドウに、ローカル・サブネッ トワークに接続するホストとストレージ・サブシステムが表示されます。
 - 注: ローカル・サブネットワークの外部のストレージ・サブシステムをディスカバーするには、「View (表示) > Task Assistant (タスク・アシスタント) > Add Storage Subsystems (ストレージ・サブシ ステムの追加)」をクリックします。
- 3. 「Rename the Storage Subsystem (ストレージ・サブシステムの名前変更)」をクリックします。サブシ ステム名の先頭部分に DS3950 のシリアル番号を使用してください。ホスト名は最大は 30 文字を使用 します。
- Locate the Storage Subsystem (ストレージ・サブシステムの検出)」をクリックします。選択したストレージ・サブシステム前面で青色の LED が明滅します。該当のストレージ・サブシステムに、その 関連付けられた名前のラベルを付けます。
 - 注: ストレージ・サブシステムが自動的にディスカバーされない場合、IP アドレスを入力してストレージ・サブシステムを手動で追加します。
- 5. 目的のストレージ・サブシステムを強調表示し、「Tools (ツール) > Manage Storage Subsystem (スト レージ・サブシステムの管理)」とクリックして、「Manage Storage Subsystem (サブシステムの管理)」 ウィンドウと「Task Assistant (タスク・アシスタント)」を開きます。
- ストレージ・サブシステムが「Optimal (最適)」状態でない場合、「Task Assistant (タスク・アシスタント)」で「Recover from Failure (障害からのリカバリー)」アイコンをクリックします。「Recovery Guru (リカバリー・グル)」で、次の手順を実行します。ストレージ・サブシステムが「Optimal (最適)」状態の場合、「Task Assistant (タスク・アシスタント)」を閉じます。

 「Subsystem Management (サブシステム管理)」ウィンドウで、「Storage Subsystem (ストレージ・サブ システム) > View Profile (プロファイルの表示)」とクリックします。「Controller Firmware (コント ローラー・ファームウェア)」、「NVSRAM」、「ESM Firmware (ESM ファームウェア)」、「Drive Product ID (ドライブの製品 ID)」および「 Firmware Versions (ファームウェアのバージョン)」タブ をクリックし、将来使用するために、それぞれの番号を次の表に書き込んでください。

コントローラー・ファームウェア:

NVSRAM:	
ESM ファームウェア:	
ドライブの製品 ID:	
ファームウェアのバージョン:	

- 8. 将来使用するために、プロファイルを保存し、プロファイル・ウィンドウを閉じます。
 - 注: ストレージ・サブシステムの構成変更を行った場合は、ストレージ・サブシステムのプロファイル および「Collect All Support Data (すべてのサポート・データの収集)」のコピーを一括して保存し ます。

IBM Support Web サイトからの情報の取得

この「クイック・スタート・ガイド」に記載されている IBM System Storage の資料、およびその他の IBM System Storage 情報は、IBM Support Web サイトにあります。 IBM Support Web サイトから最新の 資料、ダウンロード、およびその他の技術的な更新情報にアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 注: IBM Web サイトは定期的に変更されます。ファームウェアおよび資料の検索手順は、本書の記載とは 異なる場合があります。
- 1. http://www.ibm.com/systems/storage/support/ にアクセスします。
- 2. 「Select your product (製品の選択)」の下の「Product Family (製品ファミリー)」フィールドで、 「Disk systems (ディスク・システム)」をクリックします。
- 3. 「Product (製品)」フィールドで、「DS3950」、「Go (実行)」とクリックします。
- 4. 「Support & downloads (サポートとダウンロード)」の下で、該当するサポート・カテゴリーをクリックします。
- 注: デバイス・ドライバーおよびファームウェア・バージョンの詳細については、それぞれのパッケージに 記載されている README ファイルを必ずお読みください。

ストレージ・サブシステム・ファームウェアの更新

注: 16ページの『ソフトウェアのインストール』のステップをすべて完了すれば、DS Storage Manager の ホスト・コード、HBA BIOS、およびデバイス・ドライバーは最新の状態になります。

「Subsystem Management (サブシステム管理)」ウィンドウで、「Advanced (拡張) > Maintenance (メンテ ナンス) > Download (ダウンロード)」とクリックします。次のオプションをリスト順に選択します。

- 1. コントローラー・ファームウェア
- 2. コントローラー NVSRAM
- 3. ESM ファームウェア
- 4. ドライブ・ファームウェア

ストレージ・サブシステムの構成

「Subsystem Management (サブシステム管理)」ウィンドウで、「View (表示) > Task Assistant (タスク・ アシスタント)」とクリックします。ストレージ・サブシステムが「Optimal (最適)」の場合、次のタスクを リスト順に実行します。

- 1. ストレージ・サブシステムでの問題のアラート通知を構成
- 2. ホストの定義
- 3. 新規ストレージ区画の作成
- 4. 構成の保存
- 5. パスワードの設定/変更





第1刷 2009.11

Printed in Japan IBM および System Storage は、IBM Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

© Copyright International Business Machines Corporation 2009.

(1P) P/N: 60Y1544

